

国有林観察会(寸又峡)

参加報告書

- 1 日 時： 平成25年11月2日(土) 9:50～15:10
- 2 場 所： 寸又峡
- 3 参加者： 一般参加者 18人(うち子ども1人)、森林管理署4人
- 4 主 催： 静岡森林管理署、川根本町の共催
- 5 講 師： 高橋、小久保
- 6 概要

「大井川上流自然観察会」というタイトルで、森林管理署による恒例の国有林観察会が寸又峡で行われた。寸又峡という場所柄、観光地としての売り込みもあってか、今回は川根本町との共催であった。会員2名が講師として参加した。一般参加者はシニア世代の方々が大半であった。

好天の予報だったが、やや曇りがちの天気だった。それでも冷え込みは少なく、ウォーキングにはちょうど手頃な天候に恵まれた。大井川鉄道終点の千頭駅に集合し、川根本町長らの歓迎挨拶を受けた後、町が用意したマイクロバスで更に上流の寸又峡に向かった。現地で森林管理署長らから簡単なオリエンテーションを受けた後、2班に分かれて寸又峡の遊歩道を歩いた。

コースは寸又峡で最も有名な「夢の吊り橋」から、上流の飛龍橋を周回する通称「プロムナードコース」で、吊り橋前後の急坂を除けば平坦な歩きやすいコースであった。峡谷を望む展望所での昼食を挟み、約3時間ゆっくり樹木を観察しつつ、また深い峡谷の景観を眺めながら歩いた。寸又峡と言えば紅葉とエメラルドグリーンの湖の色が一番の売りなのだが、あいにく今回は紅葉にはまだ早く、また水も泥で濁っていて今ひとつだった。

樹木の解説は遊歩道沿いの樹木を中心に、特徴のあるものを選んで行った。参加者の中には詳しい人もいたが大半は「素人」なので、なるべく平易な解説と樹木の特徴を五感で体験してもらう事を心がけた。例えばアオツツラフジの種をルーペで覗いてもらい、「ほら、アンモナイトがいるでしょ」と言うと、皆一様に「あっ、本当！」と喜んでくれた。またミズナラのドングリを拾って見せると、「こんな大きなドングリ見たことがない」と言って、一生懸命拾い集める人もいた。中でもハイライトは飛龍橋の袂にあったサルナシとオオウラジロの実を取り、割って見せ、また食べてもらった時であった。「あっ、キウイだ！」、「あっ、リンゴみたい」という歓声が沸いた。そんな訳で、国有林の解説から大分逸れて、「森で遊ぶ」会のようになってしまった。

今回の参加者の中には、樹木を解説しても殆ど興味を示さない人もいた。参加費は保険料のみという事もあって、純粋に観光目的の人も多かったのだろう。そんな中で少しでも樹木に親しんでもらうためのノウハウをもっと蓄積しなければ、と感じさせられる観察会でもあった。

以上



森林管理署員によるオリエンテーション



遊歩道沿いの樹木を解説



「この実はね、こうなっているんです。」「へえー」



寸又峡溪谷展望台で記念撮影